

ハートン通



今日は、ハートンホテル京都にご宿泊いただきましてありがとうございます。
みなさんは、京の街並みの屋根の上に小さなお人形さんがいるのをご存知ですか？
このお人形さんは、瓦で作られていて「鍾馗さん」といいます。
今回は「鍾馗さん」をご紹介します。



鬼より強い鍾馗さん!

うげ面でむさ苦しく怖い顔をしている鍾馗さんですが、魔除けの効験があるとこれ旗・屏風・掛け軸として飾ったり、端午の節句にも五月人形の隣に飾るご家庭もあるようです。鍾馗さんの伝説は、中国「唐」の時代に遡ります。

高級官吏となるべく都に出て
受験した合格を果たし「状元」の
称号を受けた鍾馗さん。
ところがその風体から第6代
玄宗皇帝に怖がられ「状元」の
称号を取り消されます。
絶望した鍾馗さんは
自殺してしまうのです。



鍾馗さん

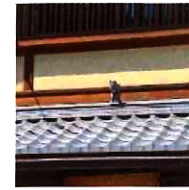
その後玄宗皇帝が病に
伏しているとき、夢に小さな
鬼が現れ、楊貴妃の香袋を
盗もうとしました。
するとどこかともなくうげ面の
大男が現れ、鬼を引き裂いて
あっという間に退治して
しまったのです。

大男は「鍾馗」と名乗り玄宗
皇帝に跪いて「試験に失敗し
自ら命を絶ったにも関わらず
皇帝に手厚く葬っていただいた
ことを感謝しております。
その恩に報いるために
参りました。」と告げました。

夢から覚めた玄宗皇帝の
病は不思議にもすっかり
治っていました。
皇帝は急いで絵師を呼び
鍾馗を書かせ、自分を
救ってくれた鍾馗を
神として祀ることに
しました。



なぜ京都に広まったの?



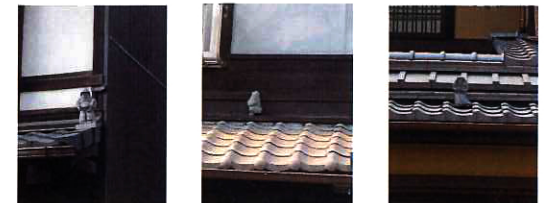
京の街並みに欠かせない屋根の上の鍾馗さん。
魔除け・厄除け・学業成就にと飾られています。そこには
京都に伝わるこんな謂れがあるからなのです。

江戸時代、京都三条に薬屋が新しく店を構えて厄災を払うとされる、大きくて立派な
鬼瓦を屋根に葺きました。しばらくするとお向かいの奥さんが原因不明の病に倒れます。
手を尽くしても回復せず困り果てた医者が薬屋の鬼瓦に跳ね
返された災いが、こちらに降りかかっているかも知れないと考えました。
しかし鬼瓦を下ろしてほしいとは言えず考えた結果鬼より強いと
言われている鍾馗さんを瓦屋に作ってもらい、鬼瓦と睨みあう
位置に据えたところ病が完治したというのです。



以降、京都では鬼瓦の対面に鍾馗さんを据えるようになりました。

京都を中心に広がったのは、向かいの家が鍾馗さんを上げると
同じように自分の家にも鍾馗さんを上げるという京都人の性根もあるようです。
ただ近所同士が睨みあわないう、正面を向いていない鍾馗さんも多く、他にも微笑み返しとして
「おたふく」を据える場合もあるようです。



鍾馗神社

2013年12月、東山区若宮八幡宮社境内に、日本で初めて鍾馗さんを祀った
「鍾馗神社」が創建されました。若宮八幡宮には陶祖・権根津彦命(いぬの
このみこと)が祀られている陶器神社があり、瓦からできている鍾馗さんも同じ焼物で
あることから、京都市内唯一の場所として建立されました。ご神体の鍾馗さんは
災い除けとして鬼門の方向である北東に向けて安置されています。東山区では
たくさん鍾馗さんが家、街を守っています。同じく街を守る地蔵には地蔵盆が
あるのになぜ鍾馗さんには感謝する祭事がないのか? この素朴な疑問から
鍾馗さんを正式に神格化して感謝する神社、そして鍾馗祭が実施され
ました。
※鍾馗神社 東山区五条橋東五丁目480 若宮八幡宮社内



さいごに
いまでは瓦屋根の家も少なく新しい建物が増えつつありますが、ホテル周辺にも
たくさんの鍾馗さんが街を守っています。※写真はホテル周辺の鍾馗さんたちです。
古くから伝わる文化に触れながら、京都の街並みを散策してみたい方はいかがですか!